

# 新型コロナウイルス感染症に罹患して 保険医の疾病・休業のリスク

東京歯科保険医協会・歯科開業医

山本 稔(仮名) やまもと みのる

新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束の気配が見えない。医療従事者の感染も相次いでおり、医師・歯科医師は日々の診療で感染リスクにさらされている。東京都内で開業する歯科医師の山本稔(仮名)氏に、自身が新型コロナウイルス感染症に感染して入院、その後療養を経て診療に復帰するまでの体験を聞いた(聞き手:編集部)。

## 強い倦怠感 当初は治療もままならず

——新型コロナウイルス感染症に罹患して、大変な思いをされたと思います。どのような症状でしたか。

山本 最初に不調を感じた日は、通常の歯科診療を終え、家族と夕食をとった後、急激な倦怠感を覚えました。座っているのもつらくなり、横になりました。その時点で熱はありませんでしたが、血圧とSpO<sub>2</sub>が低下しました。

翌日は診療せずに休むことにしました。熱が37.5℃まで上昇し、倦怠感も強い状況でしたが、日頃の疲れが溜まっているだけだと思っていました。しかし、それから全身の力が抜けていくような激しい倦怠感に見舞われ、食欲も全く無くなり、水分を取るのも難しくなりました。

——検査はすぐに受けられましたか。

山本 さすがに新型コロナに感染した可能性

も疑い保健所に電話しましたが、電話が全く通じません。感染者が増えている時期だったので、保健所もパンク状態だったのだと思います。何度目かの電話でやっと連絡がつかしましたが、当時はPCR検査の実施医療機関が今よりも少なく、すぐに検査が手配されませんでした。

数日たちPCR検査を受けましたが、同時に撮影したCTで肺に炎症が見られなかったようで、自宅待機となりました。何かあれば救急車を呼ぶようにとも言われており、一度救急車を呼びましたが、ストレッチャーに自力で乗り降りできたこともあり、入院には至らずいったん自宅に戻りました。

PCR検査で陽性と判定されてからも、即入院とはならず自宅待機が続きました。熱も38℃前後に上がり、食事や水分もほとんど取れず、かなり疲弊しました。何度か保健所に相談し、やっと入院できました。最初に体調不良を感じた日から入院まで10日間ほどかかりました。

## 入院3日で症状改善するも 診療復帰には時間を要した

——入院中の様子を教えてください。

**山本** 入院中は、経鼻の酸素チューブを装着し、アビガンを投与されたほか、抗菌薬、生理食塩水の輸液を受けて過ごしました。通常の入院とは異なり、家族との面会もできない完全な隔離生活となるため、メンタル面のフォローとして精神科医による面談も受けました。感染防止のために、食後は食器も含めて備え付けの袋に入れて密封して回収してもらいました。

入院初日と2日目までは倦怠感が強く、起き上がれないほどでしたが、入院3日目から数値は急激に改善し、酸素チューブも外すことができました。同時に倦怠感も全くと言っていいほど無くなり、コロナにかかる以前の状態に戻ったような感覚でした。

——回復してから退院、診療復帰まではいかがでしたか。

**山本** 数値が改善しても、すぐに退院できません。当時はPCR検査で2回連続陰性と判定されなければ、退院できませんでした。私は2回連続で陰性にならず、検査結果が出るのも検査の翌々日だったため、結局19日間ほど入院しました。

家族からの差し入れは可能だったので、タブレットを持ってきてもらいテレビ電話をしたり、回復してからは差し入れの本を読んで過ごしました。

体重は8kgも減ったので、退院後すぐに診療復帰とはいきませんでした。少しずつ体力づくりをしながら、2週間自宅療養を経て、診療に復帰することができました。

## 日頃から休業への備えは必要

——医院のことも心配だったのでは？

**山本** PCR検査陽性を受けて、保健所に医院の診療体制などを申告したところ、一緒に診療している息子や他のスタッフは濃厚接触者に当たらなかったことと、当時はコロナの流行を受けて予約の受付を絞っていたことから、幸い医院を休診せずに済みました。ただ、以前に感染者が出た病院や関係者が誹謗中傷を受けたことがあったため、医院やスタッフへの影響は心配でした。

——休業保障制度の給付も受けたそうですね。

**山本** 最初は審査指導対策のために保険医協会に入会しましたが、協会のさまざまな活動を知る中で休業保障制度の存在を知りました。協会が取り扱っている共済制度なら信頼できると思い加入しました。これまで大きな病気、ケガもなかったため、給付を受けたのは今回が初めてでした。そして今回、私がコロナに感染したのを見て、息子も休業保障制度に加入しました。医院を経営する医師・歯科医師にとって、自身の休業リスクへの備えは欠かせないと思いつくづきました。

——その他、コロナに感染されて気づいたことなどはありますか。

**山本** 入院の際、看護師さんなど多くの方にお世話になり本当にありがたかったです。彼らは感染防止のためグローブやガウン等をその都度着脱が必要なため、一日に大量の衛生材料が必要となります。コロナ禍で、衛生材料が高騰し、購入費用などが負担になっている医療機関も少なくありません。診療報酬の上乗せが絶対に必要です。これからも、保険医協会・保団連の運動に期待します。

——ありがとうございました。